

令和8年度 第1回碧南市民図書館協議会 会議録

1 日時

令和8年7月15日（水） 午前10時～11時

2 場所

碧南市民図書館 2階会議室

3 出席者

（1）出席者

杉浦あさの、加藤智子、山岸芳樹、竹内圭介、伊豫田祥子、小島逸男、
長崎智子、有菌完知

（2）事務局職員

教育長 小澤徹、教育部長 岡本和雄、生涯学習課長 金原厚夫、
市民図書館長 大橋幹広、市民図書館副館長 長谷川有里、
南部分館長 関由香、中部分館長 長田和子

4 傍聴者 0名

5 協議会内容

（1）教育長あいさつ

（2）会長あいさつ

（3）自己紹介

（4）議題

①令和7年度の図書館事業実績について

事務局：冊子資料『碧南の図書館2026』をもとに説明

図書館では定例行事の他に、職場体験や図書館訪問の受け入れ、学校・児童クラブでブックトークの実施、幼稚園等で保護者向け読み聞かせ講座の実施、警察官や栄養士を招いたスペシャルおはなし会など、他施設とも連携を図りながら読書推進に関するいろいろな行事を実施している。

令和7年度の各館の行事のうち、各館の特色のあるものを紹介していく。

【本館】

・講座について

図書館講座①「我が陣営にあるべし」

碧南市の片山家に残る文書を読み解く講座を実施。（講師は『我が陣営にあるべし』（幻冬舎）の著者の林口宏氏）

図書館講座②「はじめまして、手話で自己紹介」

初心者向け手話講座を実施。（講師は愛知県の聴覚障害者センター紹介の吉田加子美氏と中野美智子氏）

その他、読み聞かせボランティア講座、音訳ボランティア講座などの講座も例年どおり行った。

- ・毎年恒例の「リードポスター、図書館キャッチコピーコンテスト」は、令和6年度に東中学校にブックトークに行ったことで先生と繋がりができ、今年もキャッチコピー作品をたくさん応募してもらえた。
- ・秋の読書月間行事「へきにゃごまつり」の一環で開催した「閉架書庫ツアー」は、通常、一般の利用者が入ることができない閉架書庫を案内した後、自由に閲覧する時間を設けたもので、参加者に大変好評だった。
- ・「雑誌リサイクル本」の無料配布の準備を、昨年度に引き続き、碧南高校ボランティア部の生徒に手伝ってもらった。事業を通じて、中高生と繋がりを持てたことは図書館の大きな収穫だと思っている。今後も赤ちゃんから高齢者まで、みなさんに図書館が魅力ある施設として選んでもらえるよう、選書も含め、効果的に事業を進めていきたいと考えている。

会長：先ほどのボランティアで中高生の子たちが活躍というのは、すごく良いことだと思った。具体的には、ボランティアの参加者は何人くらいで、時間はどれくらい行ったのか？

副館長：碧南高校のボランティア部の生徒7名に、令和8年1月27、29、30日の3日間協力していただいた。時間は大体2時間で、授業が終わった15時頃から17時頃までというような形だった。

【南部分館】

- ・秋のへきにゃごまつりの一環として「LEGOプログラミング講座」を行った。キャッチネットワークの出前講座として実施（無料）。内容は、プログラミングで動くレゴロボットを組み立てて動かすというもので、図書館らしく、図書館の本を回収するロボットを作る設定で行った。小学生14名の参加があった。開催日の前後に、子供向けのプログラミング関係の資料を目立つ場所に置き、利用に繋げた。
- ・複合施設ということを生かし、年3回アリーナでイベントを行っている。
（6月のこどもとしょかんまつり行事「発射台付き飛行機を作ろう」、夏休み行事「アリーナでお話し会」、秋の読書月間行事「アリーナで飛ばして遊

ぼう」) これらのアリーナの行事はとても好評で、子どもたちが非常に喜ぶ。準備は大変だが、読書推進や利用に繋がっていることを実感している。

- ・ 出前講座で大浜児童クラブから依頼があり、「こんな面白い本があるよ」とブックトーク(本の紹介)をした。70名の参加があった。

【中部分館】

- ・ 「こども図書館まつり」の行事の一環で、就園前の子と保護者を対象にしたスペシャル版のおひざにだっこのおはなし会「たべるのだいすき」を保健センターの栄養士を招いて開催した。食べ物に関する絵本や、わらべうたを楽しんだあとに、栄養士から子どもの食に関するお話をしてもらった。
- ・ 昨年度、中部分館が開館30周年の年だったので、それに因んだ事業として「図書館でQ」というタイトルで館内を巡るクイズを実施した。(コースは大人版と子ども版の2種類。全問正解者には抽選でプレゼントを渡した)
また、それに合わせて開館から30年間の図書館のベストリーダーの展示と貸出も行った。いろいろと懐かしい本も出してあったので、利用者の方がよく手に取っていた。
- ・ 「秋のへきにゃごまつり」では、昨年も好評だった「今日の1冊お読みします」という行事を今年度も開催した。お客さまお一人からでも、絵本の読み聞かせをするもので、参加した子の年齢は小さな子から小学生の子まで様々だった。その子に合わせた絵本を司書がその場で選んだり、子どもたちからのリクエストに答えたりして読み聞かせを行った。読み聞かせの後には簡単な工作も楽しんでもらった。なかなか大変な行事ではあるが、今回も非常に好評で、参加者は昨年よりも多かった。
- ・ 春休みに「作って備える防災工作」として、廃棄する新聞紙でスリッパを作るコーナーを設置した。子どもから大人まで幅広く参加があった。こちらも合わせて、防災に関する本の展示と貸出も行った。
- ・ 例年、「おはなし会スペシャル」は会場に入れないくらい参加者が集まっていたので、昨年度から申込み制にした。そのため、前年より参加者が減っている。

A委員：中部分館の行事に大勢の子が参加している様子を実際に見させてもらってい

て、素晴らしい取り組みを工夫を重ねながらしていると感じている。小さい子たちが本に親しむことは、これからの日本人というのは大げさな表現かもしれないが、これからの人づくりを考えると素晴らしい効果があると思う。

B委員：今回、碧南高校の生徒が7人ボランティアに来てくれたというのを聞き、「何か社会の役に立ちたい」「ボランティアをやりたい」という人はたくさんいると思う。特に「図書館の手伝いをやりたい」という方もいる。そういう人に入ってもらい、お年寄りグループで図書館をサポートすることをやっていこうと考え、今、取り組んでいる。高校生ボランティアの人たちに入ってもらえるのも、すごくいい事だと思う。このように、市民の皆さんが色々なボランティアという形で図書館に関わっていくことは、非常に良い方向になるのではないかと考えている。

C委員：本館に関して一番気に入っているところは、飲食コーナーがあるところ。今は主に、孫を連れて図書館に来ているが、ちょっとお腹が空いた時や少し飽きてきた時に、飲食コーナーに行って飲食ができるというのは、とても良い。また、子どもの本で「こういうものが読みたい」と言って職員に尋ねると、すごく丁寧に探してくれて感謝している。

一方、私が自分で借りるのは旅の本が多いが、年代が古いものが結構そのまま置いてあると感じる。旅の本や地図は、情報が変わっていくものなので、あまり古いものは置いておかない方が良いのではないかと常々思っている。

館長：旅の本は、新しいものも買っているが、全国のものを常にすべて新しくすることは難しい状況になっている。そのため、古いものも若干並んでしまっている。なるべく、古いものが開架の書架に並ばないように注意して閉架に入れる作業をしているが、もし気になった点があったら、その時に職員に仰っていただけるとありがたい。また、電子図書でも新しい旅の本を購入しているので、そちらも併せて利用していただきたい。

B委員：豊橋のまちなか図書館や、安城のアンフォーレのように図書館の中で食事ができたり、喫茶店等がある図書館もある。高齢者の中には「碧南の図書館は静かにしなければならないことに、ちょっと厳しすぎるのではないか」という意見もある。もう少し、お喋りができるようなコーナーがあってもいいのではないかという声も出ていたので、意見として報告させてもらう。

館長：今、いただいた意見だが、実は他の利用者の方からも、「図書館の中に集

まって話せるスペースを設けたらどうか」という意見をいただいたことがある。ただ、図書館では逆に「話し声が気になる」という方や、人によっては、新聞をめくる音ですら気になる方もいるので、なかなか、その辺の折り合いが難しい状況がある。また、今は図書館の中に空いている場所もないため、そのような話すことができるスペースを作る予定はない。ただ、貴重なご意見として承っておく。

②令和8年度図書館の関係予算について

事務局：冊子資料『碧南市の図書館2026』をもとに説明
(P.14 (2) 図書館費の構成)

「7 報償費」の金額は15万6千円で、大きな増減はない。説明欄に「講師謝礼等」とあるが、今年度は「音訳ボランティア養成講座」と「読み聞かせ研修会」の講師謝礼とボランティア活動推進事業の謝礼である。また、一般向け図書館講座も2回開催予定であり、その講師謝礼の費用も含まれている。第1回目は「ドライフラワーアレンジメント講座」を5月に実施した。2回目は、11月に歴史系の講座を実施する予定。

「10 需用費」のうち「消耗品費」は、前年度比で大きく減少している。新聞・雑誌・追録等の購入費に当たる予算が、前年比77.5%（約90万円）の減、図書や雑誌の装備に使用するラベル等の購入費に当たる予算が、前年度比67.9%（約56万円）の減となっている。これは、昨年まで中部分館の予算として計上していた新聞・雑誌・追録等の購入予算が、今年度はなくなってしまったための減額である。

同じ「10 需用費」の「施設修繕料」は、前年度比13.9%（約200万円）の減となっている。こちらについては、今年度は大きな修繕工事の計画がないためである。

補足であるが、光熱水費は中部分館の電気料・水道料のみが計上されている。本館の光熱水費は芸術文化ホールの指定管理料に、南部分館の光熱水費は南部市民プラザ費に計上されているので、ここには記載されていない。

「17 備品購入費」であるが、本を買う資料購入費はこちらに入っている。今年度は、資料購入費が87.4%（約240万円）の減となっている。これも先ほどの消耗品費と同様、昨年度まで中部分館の予算として計上

していた図書購入費が、今年度はなくなったための減額である。昨年度、議会に出された中部分館閉館という市の方針により、今年度の中部分館の予算は、光熱水費や清掃・警備委託など、建物の管理に関する予算のみとなっている。

中部分館の閉館は議会で否決されたが、資料費等の予算はつかなかったため、今年度は本館の予算で中部分館用の新聞２紙と図書を購入して提供している状態である。

D委員：間違っていることがあったら申し訳ないが、中部分館が閉館になるという話が一時飛び交っていて、なんとか存続ということになったのに、ここまで予算が削られるということなのか？この先の中部分館の維持はどんな感じで行うのか？

また、先ほどB委員も言われたが、高校生ボランティアがお手伝いしてくれていることや、退職された方も今後ボランティア活動を含めて募集をしたいという話があったが、現役世代にもそういった活動の募集をかけることはできるのか？

教育部長：中部分館の閉鎖をするという方針としては、すでに市から出されているもので、これについて「その後の建物をどうするんだ」という話が当然あり、今、事業所からの利活用についての提案を募集している状況である。今後の予定としては、事業者から提案が出てきた時に審査会を開き、「こういう提案で利用してもらえたら建物をお貸ししましょう」ということで、事業者に建物を利用してもらおう流れになると聞いている。ただ、今はまだ、提案書を受け付けている段階なので、こういった事業者が何社来ているという話はお伝えできない。

館長：予算の関係について補足する。昨年度、中部分館の廃止案（議案）が出たのが１２月で、その時点で予算編成がすでに終わっており、廃止の予定で予算を組んであったため、当初予算の方には中部分館の図書購入費などが一切、載っていないという状況である。ただ当然、運営はしていくわけなので、とりあえずは本館予算を併用し、購入費は少なくなるが、やりくりをしていく。もし、どうしても足りないということであれば、補正予算なども考えていきたいと思っている。

ボランティア関係に関しては、先ほどB委員からもお話があったとおり、友の会で過去に活躍していただいた方々が中心になってお手伝いをしたいとい

うお話を伺っている。図書館の行事の中で、どのような手伝いをしていたいただけるのかというところを今、図書館側とグループ側とで調整をしている。また、碧南高校のボランティアについては、2～3年前から声をかけて手伝ってもらっている。最初は3人くらいしか応募がなかったのが、去年は7人の応募があった。今年も引き続き声をかけてあるので、昨年以上に手伝ってくれる子が増えれば、こちらもありがたいと思っている。

現役世代の方へというお話もあったが、今のところ現役世代の方を対象にした計画はない。しかし、その世代の中にも図書館に協力したいという方がいるかもしれないので、力を貸していただけるとありがたい。現時点では具体的な計画はないが、今後、検討していければと思っている。

(5) その他

生涯学習課長：碧南市の図書館サービス計画（第3次）についてだが、本来、第3次計画は今年度、図書館協議会の委員の皆様には計画策定の報告を行い、令和9年度から新たな計画を実施する予定であった。しかし、昨年度、中部分館の廃止（閉館）案が提示され、議会では一度反対という形になったが、まだ中部分館の方針が市として未定の状態である。

また、今年の9月に碧南市全体として、公共施設等総合管理計画の見直しが行われる。図書館を含めた碧南市の全施設が対象で、今後の公共施設の在り方が全体として示されるため、現時点で図書館サービス計画を作成しても大きく変わってしまう可能性がある。そのため、申し訳ないが、計画の作成を1年先送りさせていただきたく。来年度、現在の委員の皆様には計画策定委員をお願いし、数回にわたって協議を重ね、計画を策定する。

次回の第2回図書館協議会の日程については、令和9年3月頃を予定している。内容は図書館サービス計画（第2次）の進捗状況と、新年度（令和9年度）の事業計画について報告する予定である。